

イー・アクセス株式会社 【9427】

2004年3月期 決算説明資料



2004年5月17日

I. 2004年3月期決算総括と今後の取組み

- 新体制の社外取締役候補紹介

II. 2004年3月期 決算の詳細

V. 総括

I. 2004年3月期決算総括と今後の取組み

- 新体制の社外取締役候補紹介

II. 2004年3月期 決算の詳細

V. 総括

高い成長性を持続

2004年3月末時点の累計加入者数は約150万回線。第4四半期の新規加入者数（純増数）は過去最高を記録し20.2万回線増加。

ADSL事業の 収益基盤の確立

会社設立5期目にして初めての通期の黒字化を実現。売上高は前年同期比88%増の381億円、当期純利益は見込額の15億円を57%上回る23.6億円を達成。

株式上場による 財務体質の強化

東京証券取引所マザーズ市場への株式上場による資金調達により、純有利子負債 / 株主資本比率は大幅に改善。当期のROEも14.8%を達成。

累積損失の解消と 資本準備金の減少

資本準備金142.3億円のうち119.4億円を取り崩し欠損金の填補に充当。累積損失を解消する事で今後の機動的な経営戦略を可能とする。

AOLジャパンのISP 事業の営業譲受

AOLジャパンのISP事業の営業譲受により、ISPネットワークのアウトソーシング事業に事業領域を拡大。今回、新たにAOL事業本部を新設。

次世代モバイル ブロードバンド事業 への取組み

2004年4月にTD-SCDMA(MC)の実験予備免許を取得。将来的な次世代モバイルブロードバンドサービス提供に積極的に取り組む。

2004年6月29日の定時株主総会承認手続き完了等が前提。

2004年3月期 通期実績

	2003年3月期	2004年3月期	増減額
売上高	202.8億円	381.4億円	+178.7億円
営業費用	246.2億円	340.0億円	+93.8億円
営業利益	43.5億円	41.4億円	+84.9億円
経常利益	53.0億円	27.2億円	+80.2億円
当期純利益	55.8億円	23.6億円	+79.4億円

●売上高は381億円となり、前年同期比88%増加

●営業費用は、バックボーンの光ファイバ化、減価償却費用の削減に加え、NTT関連費用と接続料金等の引き下げにより計画値を大幅に下回る。

●当期純利益は、前期から79.4億円改善し、23.6億円の黒字を達成。計画値を大幅に上回る。

2005年3月期 通期業績予想

加入者拡大により2005年3月期も増収増益を計画
 (売上高34%増、当期純利益112%増)

	2004年3月期	2005年3月期	増減額 / 増減率(%)	
売上高	381.4億円	510.0億円	+128.6億円	+34%
経常利益	27.2億円	50.0億円	+22.8億円	+84%
当期純利益	23.6億円	50.0億円	+26.4億円	+112%

新体制の社外取締役候補紹介

通信・IT・金融分野で経験と実績を持つ国内外のエキスパートが参画

2004年6月29日に開催予定の定時株主総会の承認を経て就任予定。

ウィリアム・ケナード
【元 米国FCC委員長】

- 現 カーライル・グループ マネージング・ディレクター (テレコム・メディア担当)
- 前 米国連邦通信委員会 (FCC) 委員長 (1997～2001)
- 競争政策を強力に推進、携帯電話やインターネットの普及に実績

ポール・レイノルズ
【現 英国通信会社役員】

- 現 BTホールセールCEO

橋本 徹
【元 都市銀行頭取・会長】

- 現 ドイツ証券会社東京支店会長
- 元 株式会社富士銀行頭取及び会長

田代 守彦
【元 総合商社社長】

- 前 株式会社トーメン代表取締役社長
- 電子情報通信分野での知識とマネジメント経験を持つ

安井 敏雄
【元 シリコンバレーIT企業社長】

- 元 ソレクトロンジャパン代表取締役社長
- 日米IT業界での幅広い知識とマネジメント経験を持つ

國領 二郎
【大学教授】

- 現 慶應義塾大学環境情報学部教授
- ネット時代の経営システムやビジネスモデル、協働構造、消費者行動に関する著書・論文・受賞多数

レイモンド・クオック
【アジア有力財閥のVice Chairman】

- 現 サンホンカイ ヴァイス・チェアマン、マネージング・ダイレクター
- 現 スマートン テレコム 会長 兼 CEO
- 現 サニー・ビジョン 会長 兼 CEO

I. 2004年3月期決算総括と今後の取組み

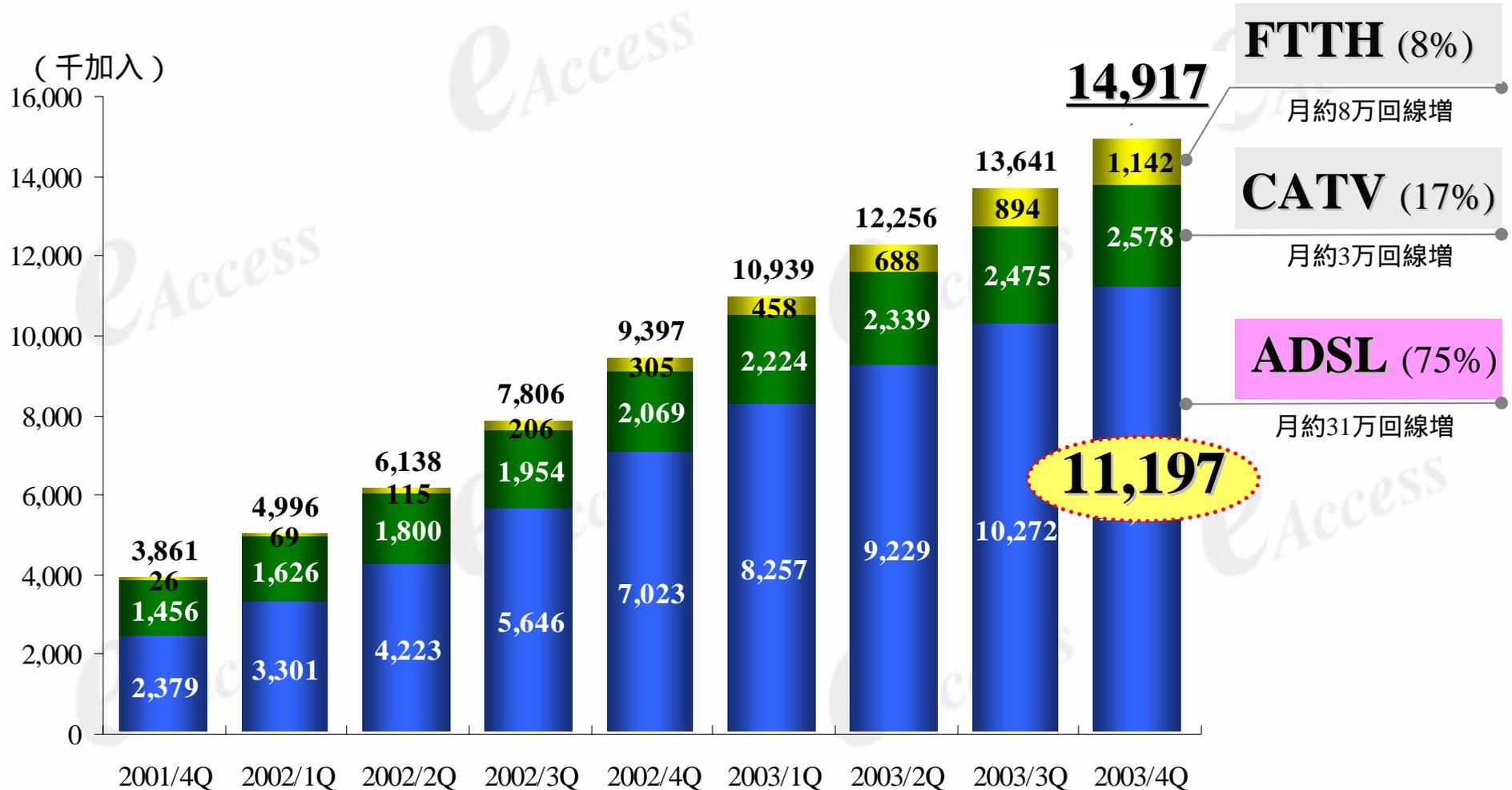
- 新体制の社外取締役候補紹介

II. 2004年3月期 決算の詳細

V. 総括

国内ブロードバンド市場の伸び

日本のブロードバンド回線は3月末で約1,500万回線。ADSL回線は月30万回線を越える勢いで引き続き増加。



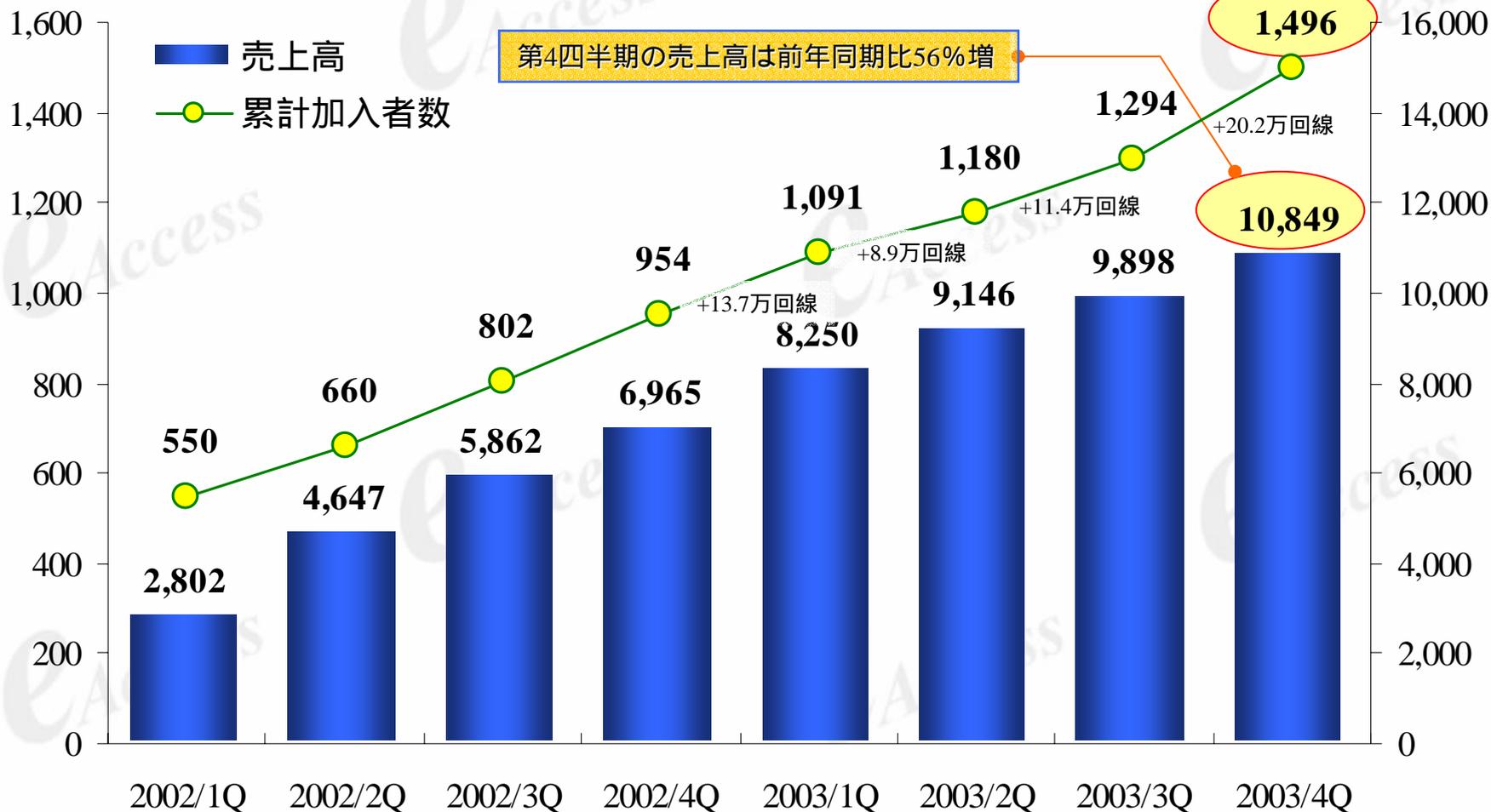
イー・アクセスの累計加入者数/売上高の伸び

第4四半期に過去最高の純増数（20.2万回線）を記録し、売上高も順調に推移。

（累計加入者数：千回線）

累計加入者数は前年同期比57%増加。

（売上高：百万円）

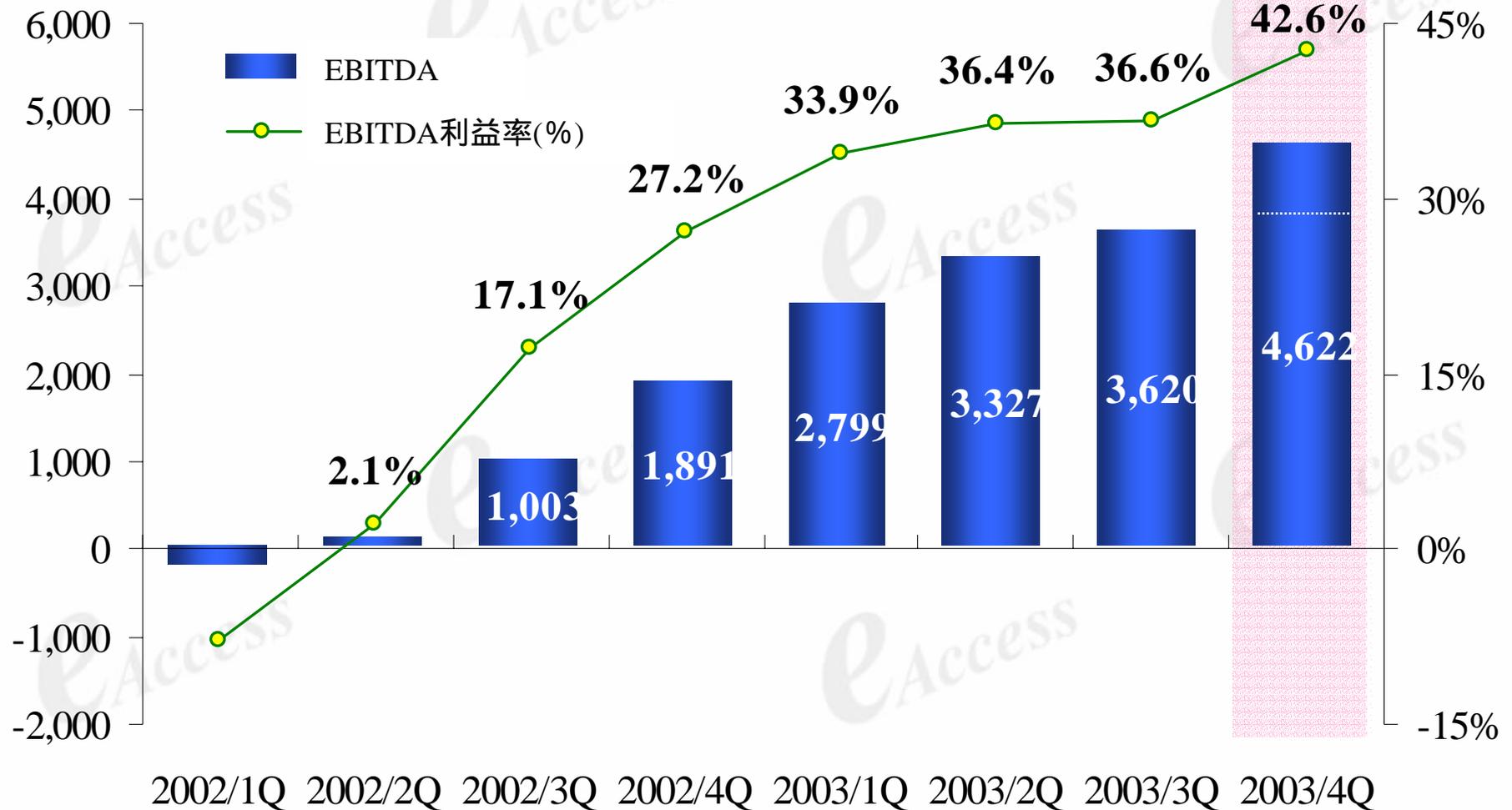


EBITDA及びEBITDA利益率の推移

2004年3月期通期のEBITDA利益率は、37.7%を達成。

(EBITDA：百万円)

(EBITDA利益率：%)

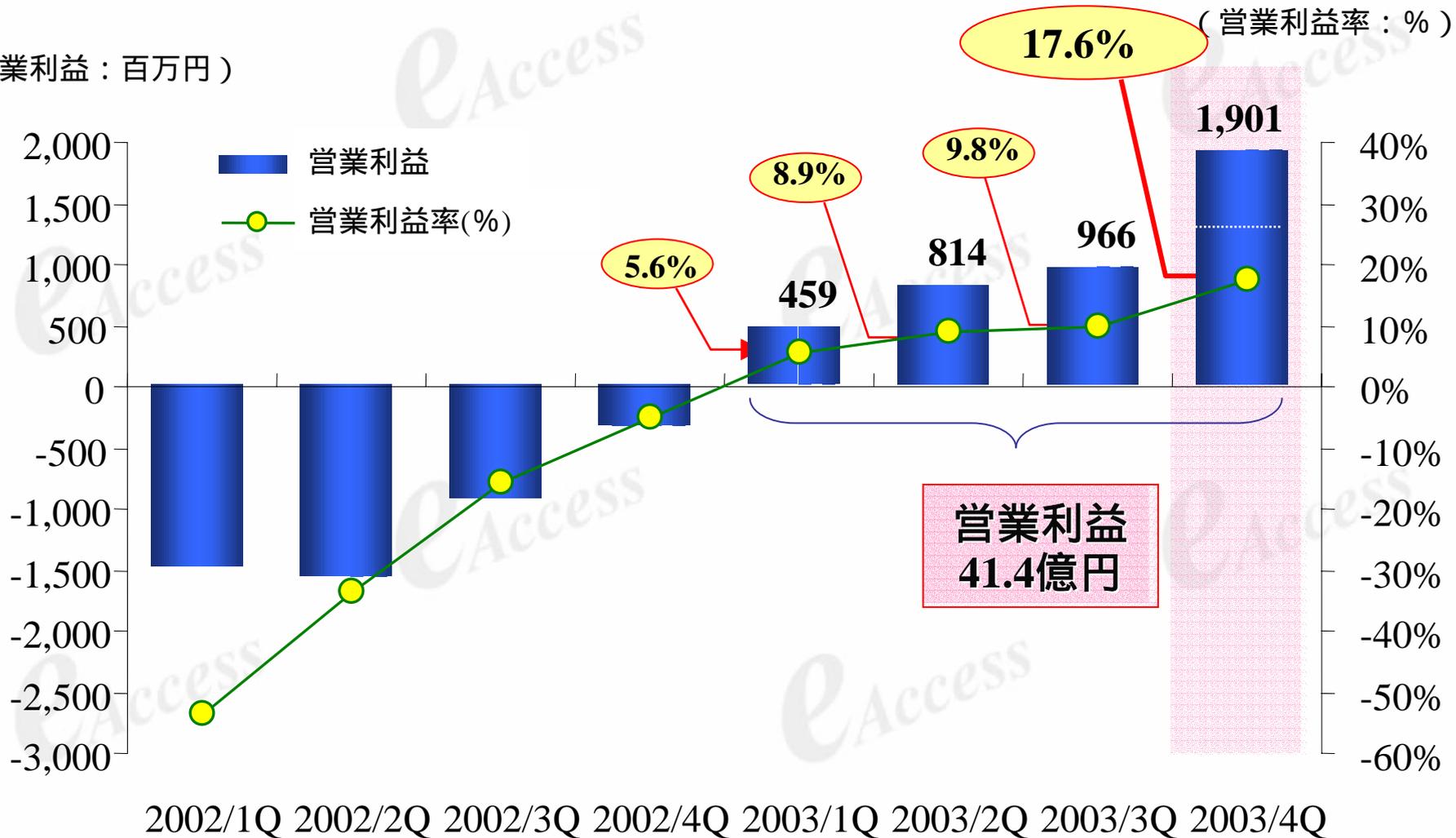


営業利益及び営業利益率の推移

2004年3月期通期の営業利益率は10.9%

(営業利益：百万円)

(営業利益率：%)

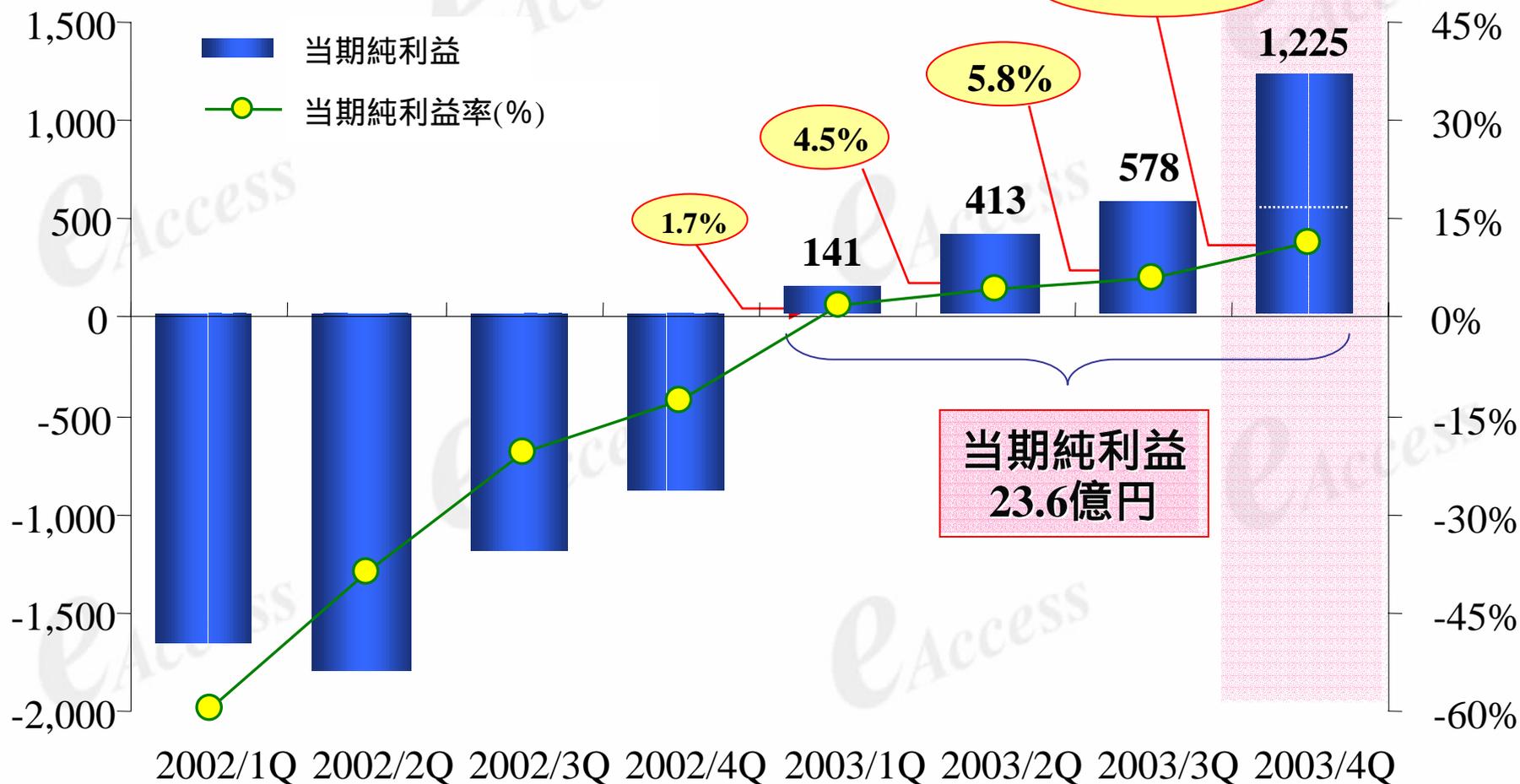


当期純利益及び当期純利益率の推移

2004年3月期通期の当期純利益率は6.2%

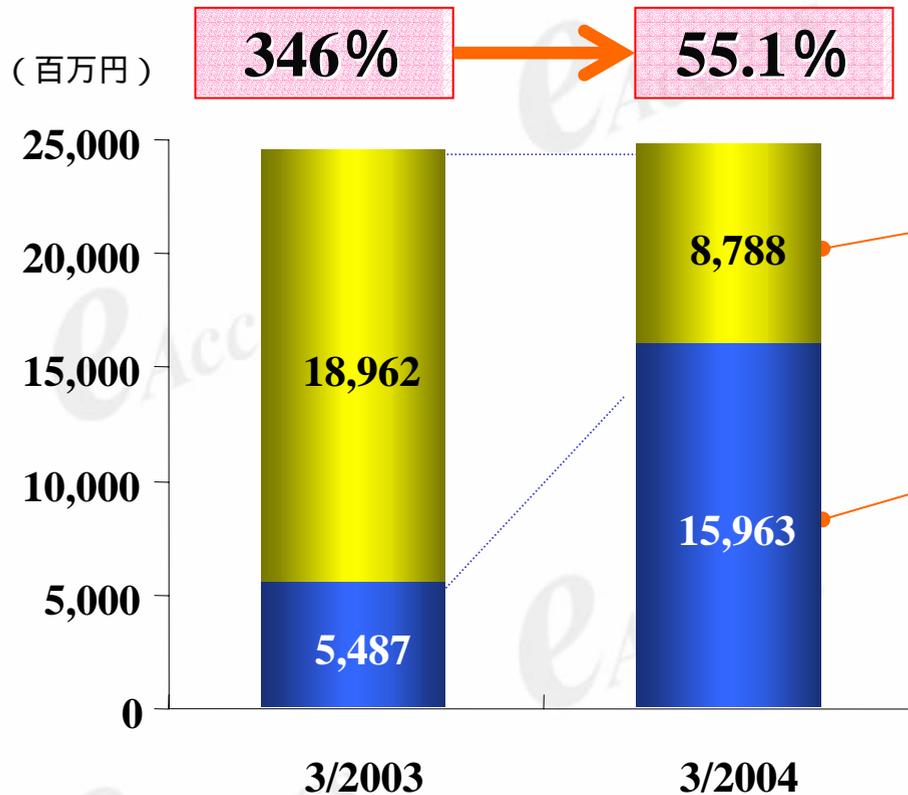
(当期純利益：百万円)

(当期純利益率：%)



株式上場によるバランスシートの改善

純有利子負債 / 株主資本比率の推移



【純有利子負債】

現預金残高の増加、及び営業キャッシュフローの改善、借入金残高の減少により、約102億円削減

【株主資本】

上場に伴う77億円の資金調達による資本増強、事業の黒字化による利益拡大により約105億円増加

現預金残高	11,411 (百万円)	18,396 (百万円)
-------	--------------	--------------

ROE	102%	15%
-----	------	-----

累積損失の解消及び資本準備金の減少

バランスシート (2004年3月末時点)

現金及び現金同等物	184.0億円
その他流動負債	53.3億円
流動資産計	237.3億円
固定資産計	254.7億円
資産合計	492.0億円

資本準備金の減少

資本準備金142.3億円のうち119.4億円を取り崩し
欠損金の填補に充当。

累積損失を解消して、今後の機動的な経営戦略を
可能する。

株主総会承認等の手続完了が前提



流動負債計	183.0億円
固定負債計	149.4億円
資本金	136.7億円
資本剰余金	142.3億円
利益剰余金	-119.4億円
資本合計	159.6億円

実施後の残高

136.7億円

22.9億円

0億円

159.6億円

● 資本準備金の取り崩し

● 累積損失の解消

● 株数・資本合計額は変化無し

負債資本合計 492.0億円

I. 2004年3月期決算総括と今後の取組み

- 新体制の社外取締役候補紹介

II. 2004年3月期 決算の詳細

V. 総括

- 創業5期目にして事業の黒字化を達成し、事業基盤を確立。
- 引き続き高い成長性を持続し、第4四半期の新規加入者数は過去最高を記録し、累計加入者数は150万回線。
- 株式上場によりバランスシートは大きく改善。2004年3月期のROEは14.8%を達成。
- 累積損失を解消し、今後の機動的な経営戦略を可能とする。
- AOLジャパンのISP事業の営業譲受により、ADSLユーザーの拡大と収益力を強化。
- 次世代モバイルブロードバンド事業の実証実験により新サービスの展開に取り組む。
- 新たな社外取締役の招聘により、上場企業としてのガバナンスの強化を図る。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。